

そこにあるもの
—モノクロームの魅力—

秋山 泉

AKIYAMA Izumi

1.《静物XVI》2014年 鉛筆・紙 606×500mm

中村 眞美子

NAKAMURA Mamiko

2.《秋から冬へ》2013年 ドライポイント 1200×900mm

小松 嘉門

KOMATSU Comeon

3.《木霊》2000年 木版画 1120×820mm



2015年4月11日[土] — 6月7日[日]

- 開館時間=9:00—17:00 (最終入館16:30)
- 休館日=火曜日(5月5日は開館)/祝日の翌日(5月7日)
- 入館料=高校生以上:500円/小中学生:150円
- 主催= 小海町高原美術館
- 後援= 長野県/長野県教育委員会/信濃毎日新聞社/SBC信越放送/NBS長野放送/
TSBテレビ信州/abn長野朝日放送/FM長野/八ヶ岳ミュージアム・リング
- 協力= 株式会社小林画廊

そこにあるもの

モノクロームの魅力

小海町高原美術館では、「そこにあるもの—モノクロームの魅力—」と題し、3名の作家を紹介します。

モノクロームとは単一の色彩を意味し、美術では単色画、単彩画をさします。本展では、秋山泉の鉛筆画、小松嘉門の木版画、中村眞美子のドライポイント（先端がとがった針等で版に直接図像を刻み込む版画技法）による主に白と黒のモノクロームの表現を展覧します。

秋山泉は、陶やガラスの器、蝋燭、室内等のモチーフを光のなかで捉え、硬度の違う多くの鉛筆を駆使し、独自の絵画空間をつくり上げています。小松嘉門は、長い時を刻む巨木との対話や、バリ島でのスピリチュアルな体験から、木版にこだわり、大判の木版画で精緻な作品を制作しています。中村眞美子は、枯れゆく草などの植物を、独特のにじみが特徴のドライポイントの線と画面構成で表現し、静かで豊かな風景を見せてくれます。

それぞれの作品の光や、空間、時間から浮かび上がる「そこにあるもの」の存在を感じ、技法の異なる驚くべき表現の魅力をお楽しみ下さい。



秋山泉《静物IV》2014年 鉛筆・紙 1000×1000mm

出品作家 Artist
(50音順)

秋山 泉 AKIYAMA Izumi

[鉛筆画]

1982年 山梨県生まれ。

2009年 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻 修了。

小松 嘉門 KOMATSU Comeon

[木版画]

1963年 東京都生まれ。

1985年 和光大学人文学部芸術学科卒業。

中村 眞美子 NAKAMURA Mamiko

[ドライポイント]

1972年 長野県生まれ。

1993年 長野美術専門学校造形学科デザインコース卒業。

2003年 版画家・故山下孝子氏に師事、版画を始める。



小松嘉門《ダブルガーの門》2000年 木版画 1400×1500mm



中村眞美子《秋から冬へ》2013年 ドライポイント 600×1350mm

□オープニング・レセプション&アーティスト・トーク

4月11日[土] 15:00~16:30

アーティスト・トーク講師:秋山泉氏、小松嘉門氏、中村眞美子氏

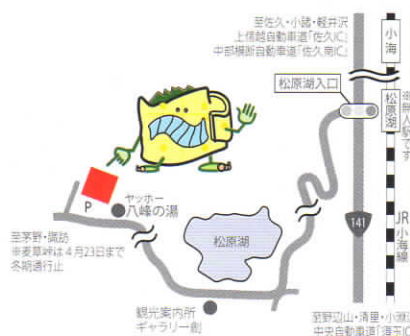
□交通のご案内

◎車にて/中央自動車道「須玉IC」、上信越自動車道「佐久IC」、中部横断自動車道「佐久南IC」より国道141号線を経て「松原湖入口」の信号を松原湖方面へ約4km

◎JRにて/長野新幹線「佐久平駅」または、中央本線「小淵沢駅」より小海線にて「小海駅」もしくは「松原湖駅」下車、路線バス（八峰の湯・美術館行き）またはタクシーにて「八峰の湯・美術館」下車

◎宿泊・観光のお問い合わせ

松原湖観光案内所まで (TEL.0267-93-2005)



設計:安藤忠雄建築研究所

小海町高原美術館

〒384-1103 長野県南佐久郡小海町豊里5918-2
Tel.0267-93-2133 <http://www.koumi-town.jp/museum/>
<https://www.facebook.com/koumimuseum>